白河二中だより

ＮＯ．３７
２０２５．　１．１７
白河市立白河第二中学校
発行責任者　　小野　聡

努力こそ成功への唯一の道だ！

今週は３年生の最後の定期テスト、１、2年生は白河市学力調査を行いました。普段の授業や家庭学習で得た力を発揮できたでしょうか？

本校では、以前お知らせしたように、基礎学力の定着のために、１学期に漢字、2学期に計算、そして、先週、スペリグンコンテストを実施しました。

ちなみに、計算コンテストの合格率は、

３年生　９６．８％（２年次　９０．２％）、２年生　９６．５％（１年次　９２．５％）

１年生　８３．０％　でした。３年生も２年生も昨年度より合格率が上がっており、子どもたちの地道な努力の成果が見られました。

スペリングコンテストに向けても、朝の学習の時間や放課後、また、冬休みも学校で学習した生徒がおり、それぞれが自分の目標に向かって取り組んだところです。本校の職員も「誰一人取り残すことのないよう」、本気になって、対応してきました。

結果については後日お知らせいたしますが、子どもたちには、できなかった問題を、時間をおかずに、繰り返し練習し、今のうちに覚えていってほしいと思います。また、子どもたちのこれまでの努力に対し、家庭でも言葉をかけていただければと思います。

「努力することで能力はつくられる」

斎藤喜博

いままでとび箱のとべなかった人が、努力した結果、とび箱がとべるようになったということでもよい。数学のできなかった人が、努力した結果、数学がわかり、数学をやることがおもしろくなったということでもよい。一つの文章や本を読んだとき、はじめはむずかしくておもしろくなかったが、何回も読んでいるうちに、そのなかにあるすばらしさがわかり、自分がぜんぜんちがう世界へはいっていくことができたという経験でもよい。

そういう経験を一つ一つ積み重ねていくことによって、努力するということはできるようになっていく。努力をすれば、いままでより、よい世界、高い世界へすこしでも行くことができ、より楽しくなるという経験があるから、努力できるのである。そういう世界に行きたいと思って、どんなほねおりでもするようになる。そういうことがないと、だれでもなかなか苦しい努力などできないものである。

ところが、そういう苦しさを越えた経験を持っていない人は、困難とか苦しさとかにぶっつかったときに、すぐにあきらめてしまう。どんなほねおりでもして、困難とか苦しさとかに堪えぬき、それを突破するということをしないで、途中であきらめてしまい、自分にはできないものだと思ってしまう。そして自分には能力がないのだと思ったり、他人をうらやましいと思ったりしてしまう。

はじめから勉強ができ、はじめからなのが、えらいのではない。はじめからだがじょうぶでできたり、からだがじょうぶであったりするのではない。努力もしないのに、勉強ができたとしても、そういう人がりっぱなのではない。もしあなたがりっぱな人だとすることはできない。その人に能力があるとすることはできない。

そうではなく、努力をすることによって、自分のからだをじょうぶにしたり、新しい知識を獲得したり、新しい考えをつくり出したりする人こそりっぱなのである。つぎつぎと自分を新しくし、つくり変え、高めていく人こそりっぱなのであり、能力のある人であり、しあわせな人である。

栄光をたたえて

【県中学校柔道錬成大会２部３・４・５位リーグ】

○１位　土屋　明聖　　内藤　　蹴

【東西しらかわ中体連「優秀選手賞」】

○矢内　　結　　秋山　美羽　　石井　光紀　　小白井優美花

　秋山　美桜　　冨田　真帆　　江連　優恵　　小島　芽依